

**令和7年度  
第2回藤島地域振興懇談会  
会議録(概要)**

期 日：令和8年1月30日(金)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

## 第2回藤島地域振興懇談会(会議概要)

- 日 時 令和8年1月30日(木) 18:00~19:45
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員 10名:成澤 剛、佐藤 智信、佐藤 浩幸、井上 夏、上野 拓史、  
高山 千代子、齋藤 昭彦、大沼 富美雄、大久保 紀子、星川 洋平
- 欠席委員 5名: 太田 幸治、上田 智哉、金内 未由枝、堀 綾乃、須貝 高貴
- 市側出席職員
  - 〈教育委員会〉 管理課長 石川 聡
  - 〈藤島庁舎〉 支所長 白井 覚、総務企画課長 齋藤 優、市民福祉課長 工藤 礼子、  
産業建設課長兼エコタウン室長 上林 喜博  
総務企画課課長補佐 佐藤 千冬、総務企画課副主幹 成田 譲  
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 村田 喜栄
  - 〈地域振興課〉 専門員 北山 幸平 専門員 下本 敬己
- 次 第
  1. 開 会 齋藤 優 総務企画課長
  2. 会長あいさつ 成澤 剛会長
  3. 報 告
    - (1) 令和7年度第1回藤島地域振興懇談会での質問事項について
  4. 説 明・協 議
    - (1) 義務教育学校整備について
      - ・基本構想の策定(教育委員会) 資料 1-1 資料 1-2
      - ・学校周辺施設のあり方(藤島庁舎) 資料 2
      - ・基本構想策定にかかる検討スケジュール(教育委員会) 資料 3
    - (2) 鶴岡市過疎地域持続的発展計画の策定について(地域振興課) 資料 4-1  
資料 4-2
    - (3) その他
  5. その他
  6. 閉会

### 3. 報告

- (1) 令和7年度第1回藤島地域振興懇談会での質問事項について  
(市民福祉課長説明)

委員より意見・質問なし

### 4. 説明協議

- (1) 義務教育学校整備について

- ・基本構想の策定(教育委員会) 資料1-1 資料1-2
  - ・学校周辺施設のあり方(藤島庁舎) 資料2
  - ・基本構想策定にかかる検討スケジュール(教育委員会) 資料3
- (教育委員会管理課長、総務企画課副主幹説明)

委員より意見・質問

#### 【委員】

新しい小中校ができた後のグラウンドの位置はどこになるのか。今の児童館と旧老人福祉センターがどのようになるのか。武道館を取り壊して、新しい武道館ができるまではどうすることになるのか。

#### 【管理課長】

グラウンドの位置は、今後策定する基本計画基本設計の方で考慮していく。

#### 【市民福祉課長】

児童館は、引っ越しが終わり次第廃止の予定。旧老人福祉センターは、建物自体が市の社協の所有のため今後協議していく。

#### 【総務企画課長】

武道館については工事のために先行解体が必要であり、代替施設については部活動に支障が出ないように今後交渉していく。

#### 【委員】

児童館ができるまではどうなるのか。

#### 【市民福祉課長】

今の建物を活用する予定としている。

#### 【委員】

解体後の剣道部の練習場の確保を、責任を持ってしっかりやってもらいたい。

**【総務企画課長】**

剣友会さんとも協議をしながら、練習場所の確保をしていく。

**【委員】**

- ①義務教育の概要で、3 ブロックに分けるとのことだが、児童の転出入の際支障は無いか。
- ②ゾーンを分けて一般の方との共有を多くするとのことだが、外部から不審者が侵入した場合の対応は。
- ③ 民間活用ゾーンについて予算要求を早めにしておかないと、何もできないただの空き地になってしまうのではないか。
- ④地域説明会の案内のタイミングが遅いのではないか。

**【管理課長】**

- ①勉強の内容が大きく変わるわけではないので、途中で転入転出しても、問題なく移行できる。
- ②エリアを区切って、自由に行き来できないような形で分けるので、安全に配慮しながら建設の方を進めていく。
- ④案内が遅くなったことはお詫びしたい。なお学校関係者については、各学校を通じてメールで既に案内を差し上げている。

**【総務企画課副主幹】**

- ③まだ、構想案を説明している段階で余剰地の大きさも分からない。現在は役所で予算を持って整備するという方向ではなく、民間の力を借りて地域に資するような整備をしたいと考えている。

**【委員】**

- ①民間ゾーンを作らなければならないのか疑問がある。全てを教育ゾーンとして使った方がいいのではないか。
- ②中学校のグラウンドに新校舎を建てるという根拠がきちんと説明がされていないのではないか。

**【藤島支所長】**

- ①現在 2 つの学校敷地に 1 つの学校が建設されるので、余剰地が出てくる可能性に基づいて、想定をしている。
- ②整備基本構想上で建設予定地を検討する際に、定量的評価と定性的評価をした上で中学校グラウンドを選択している。

**【委員】**

今の武道館は 5・6 年前に床を張り替えている。それが 1 番早く無くなって、代替を他に求め

ることができるかということも考えていただきたい。

**【議長】**

トータルの代替施設については検討していただいて基本構想の時に明らかにしてほしい。

**【委員】**

①完成時に入る子供の保護者は現時点で幼稚園児や未満児の親であり、小中学校のことが、わからない中で進めることになると思うので、引き続き周知して、不安な点をどんどん拾い上げて解決していただきたい。

②今回義務教育学校になるということで、選択と集中という意味で、支援員などのマンパワーについても、どんどん強力なものにしていただきたい。

③令和 11 年から小中学校を今の校舎を使った形で義務教育学校を始めるというが、単なる小学校の統合ではなくて義務教育学校を選択した理由を教えていただきたい。

**【管理課長】**

②県にも職員の配置を要望していく。市としても支援員の確保に努めて参りたい。

③藤島地域でご検討いただいた中で、義務教育学校という形の設立がいいという結論をいただき、それを踏まえて教育委員会としても設立に踏み切った。

**【総務企画課副主幹】**

③補足する。小学校だけ統合しても新しい学校を作らなければならない。14 年に再度義務教育学校になると、学校も生徒も閉校、開校の手間が 2 度かかってしまうためこのスケジュールになった。

**【委員】**

子どもたちへの影響はどうか。

**【管理課長】**

子どもたちへの影響は、小学校だけ先に統合になると環境に慣れるプロセスが 1 回増えてしまうことになり若干負担になる心配がある。

**【総務企画課副主幹】**

東栄・渡前では複式等の発生が見込まれることもあって、保育園の父兄からは早く統合して、複式学級の発生がないようにしてもらいたいという要望が強く、教育委員会でも踏み切ったという経過になっている。

**【委員】**

①施設整備の基本的な考え方の「ICT と対応の学びに対する学習基盤」というところで、AI が発達してる中で、それを活用していく部分を学びに入れて欲しい。先生たちが忙しすぎて、声をかけられないという声があるので、AI 先生みたいな形で相談できるものがあれば、後から先

生たちが直接フィードバックするとか、色々なことができるのではないか。

②義務教育学校は初めての試みということで、全国からもぜひここに入りたいと思ってもらえるような特色をもっと前面に出して、子供たちが生き生きと通えるような学校にしてほしい。

#### 【管理課長】

①AI については、研究を進めながら、導入を図ってまいりたい。

②地域と関わる新しい学校ということで、良いものを作っていきたい。それによって藤島地域に新しく人が来れるような学校になればいいなという思いは一緒なのでその辺も踏まえて、設立に向けて進めていきたい。

#### 【委員】

①小学校と中学校の間の道路は無くなるのか。

②学校整備と共に周辺の駐車場整備もやってほしい。

③民間活性化ゾーンは公共的な施設にしてほしい。

#### 【総務企画課長】

①道路は無くなる予定

②駐車場の整備については想定している

③建設場所は将来の余剰地なども考慮して中学校グラウンドと決めた。周辺の施設や駐車場に関しても将来的に考えていく。

#### 【委員】

①良い教育があれば全国から人が移住してくることもある。皆で力を合わせてやっていくべき。

②民間活用ゾーンは子育て支援施設とし、会議室もあり、高齢者も集えるような施設の建設を考えてほしい。

#### 【委員】

地震のことは考えておいてほしい。何かあった時の拠点としての機能がなければならないという意識のもとに、将来の地域づくりの意思をしっかりと持ってほしい。

#### 【支所長】

防災拠点ということでは活動センターがあり、避難所対応の備品の配置等計画している。新しい学校ができることで新たな対応を検討していくことになる。今後その計画の進捗を踏まえて見直し等配慮していきたい。

(2)過疎計画の策定について 資料 4-1 資料 4-2

(地域振興課北山専門員説明)

【委員】

交通手段の確保について誰のための確保なのか。福祉サービス的な方向なのか。

【地域振興課専門員】

ニーズは高齢者と通学者が占めているが、観光需要もある。各協議会や交通会社がニーズを把握し今後も柔軟に計画し再編をしていきたい。

【委員】

今後も高齢者のニーズが増えていくことが予想される。国交省の交通空白対策事業に応募する予定はないか。

【地域振興課専門員】

今運転手不足がかなり進んでいる状況にある。交通空白が全国的に大きな問題になってる。鶴岡は交通空白地帯にまだ需要が無く、バスを配備するのは難しい。ライドシェアは自治会でボランティア有償運送に取り組んでいる所もあるが、運転手の高齢化も問題になっている。交通空白に関する国の補助金も活用しながら、頑張っていきたい。

【委員】

過疎化について藤島は藤島で過疎に対する将来像のビジョンを立てる必要があるのではないか。今後集落の存続が難しい状態、簡単に年寄が住めない状態になっていくと思う。総合的に過疎化と集約も考えて、ビジョンを作っていただけないだろうか。

【支所長】

生活、社会制度全般について網羅的に想定して考えていかなければならない。日本全体が人口減少で、この状況は世界の中でも突出してる状況であり、よその国でも日本のやり方を注目している状況がある。今後暮らしていく人たちの意識等も問われていく。相互扶助の世界が必要になってくると思う。その意識を醸成するということも踏まえながら人口減少の状況の中でより良い将来を作っていければという観点を抑えながら物事進めていきたい。

【委員】

- ①鶴岡病院跡地のサッカー場の整備は賛成している人が少ない。早急に見直してほしい。
- ②農業の6次化の推進と言われている中で、補助金等が利用しにくい状態となっている。補助金の体制を見直してほしい。

【支所長】

担当部署に伝える。

**【委員】**

①私は移住がキーワードだと思っている。移住コーディネーターについて活動が見えない。知人の移住者は住居、仕事に大変苦勞されていた。

②移住のためにも地域おこし協力隊を増やしていったらどうか。

**【地域振興課専門員】**

移住コーディネーターについては周知を頑張っていきたい。地域おこし協力隊については、現在は募集していないが、活用できるような事業をやっていきたい。

**【委員】**

義務教育学校を地域の広告塔にして、地域の良さをアピールしてほしい。各庁舎に本所とWEBでつなげるような窓口をつくってほしい。

**【委員】**

義務教育学校の視察先で明るい子どもたちを見た。藤島もそのようになってほしい。

**【委員】**

地域の将来像についての議論を活発にしてほしい。